

令和5年度墨田区立第三吾嬬小学校

児童の主体性の育成

「主体的な児童の姿」とは？



「主体的な児童の姿」とは？

「遊び」

- 子どもが夢中になって遊んでいる時の様子

子どもが夢中になって遊んでいるときのような「学び」





主体的な学びとは？

子どもは「遊び」から学ぶ
(「遊び」からしか学べない)

児童の主體的な学びは

- 一斉指導（受身）の中には生まれにくい
- 協働的な学び、対話的な学び（＝「遊び」）の中に生まれる

令和の日本型学校教育を支える教師

「遊び」の中に「学び」を
見取る力

「ティーチャー」ではなく・・・

- ファシリテーター
- コーチ
- 伴走者

令和の日本型学校教育を支える教師

- 教えるのは知識（コンテンツ）ではなく、
学び方（コンピテンシー）
- 教師が話している時間を極力削り、子どもが
話している時間がメインになる学習時間
- 子どもの「学び」を見取り、的確に評価する

仮説：子どもが主体的に学び始めたら

学力の問題、不登校の問題、いじめの問題、教員の過重労働の問題…学校が抱える様々な問題の根源は、子どもをこちらが用意した型にはめ込もうとすることから起こる。

子どもが「主語」になる学校、子どもが主体的に学ぶ学校は、それらの課題を一括で解決することができる。